

申15号

## 京浜東北線 川崎駅構内列車脱線事故の 原因究明を通じて安全風土再確立を求める緊急申し入れ交渉

2/23に発生した脱線・転覆事故について、「事故を重く受け止め、再発防止に向け取り組む」という共通認識を確認し、団体交渉を実施!

### 1項 京浜東北線川崎駅構内で発生した列車脱線事故の原因を明らかにすること

**会社** 詳細は現在検討中だが、オペレーターと重機安全指揮者の指示命令ができていないことが直接の原因である。

### 2項 同種事故の再発防止に向け、背後要因を分析し、徹底した原因究明を行うこと。また作業員の注意力のみに頼ることのない恒久対策を講じること

**会社** ○現在、社内で事故の分析を実施中。仕組み上どのような問題があったのか明確にし、必要な対策を打っていく。短絡器や工事用重機に防護無線をつけるなどを検討中  
○繰り返し発生している事象をなくしていくための検討も実施している。

**組合**  
○会社の対策は事故が起きるたびにルールを作ってきたが、結果事故は減らない。今回の緊急措置も対策になり得ていない！（列車防護用具を誰も持たないでどうやって列車防護するのか！）  
○今までルールを作っているが、それが守られているか誰もチェックしていない！  
○今のルールは会社の押しつけだ！現場を知らない！機能していない！という共通認識を持って対策案を作らないと事故を無くすことはできない！

「ルールが現場とあっていない」「機能していない」という共通認識を持って、対策案を検討することを確認!

### 3項 JR敷地内の工事の責任はJRにあることから線路閉鎖を伴うすべての工事にJR社員が立ち会うこと

**会社** ○お客さまの死傷事故ゼロ、社員の死亡事故ゼロのために積極的にかかわっていく。

JRの責任については最後まで言及せず！責任を業者にとらせて終わりたい姿勢!

JRの責任を明確にしなければ立会いで何をすべきかが見えてこない！それを明確にしたうえで前提としてすべての線閉作業にJR社員の立会いを求める!

### 4項 「原則線閉」の重要性を全関係社員に徹底すること。また、複数線区間においては、全線線路閉鎖着手後に作業を開始すること

**会社** ○全線線路閉鎖着手後が基本。但し書きとして、それによれない場合の対策を講じている。

**組合** ○全線線閉が基本というが、但し書きがある。会社の姿勢が見えない!

会社が現場を理解していない!

線閉未着手線への進入防護対策について質問するも会社側は明確にこたえられず!

対策が現場に徹底されていない証拠だ!

事故に向き合っていない会社の姿勢が露呈!  
全組合員で事故に向き合い真の原因究明を行おう!